

【Insectopia (インセクトピア)】とは： insect (虫) と utopia (理想郷) を掛け合わせた造語
『蟲たちを含む、地球上に生きる全ての仲間が快適に生きることができる世界』を創るため、SHELLグループがお届けする情報発信ニュースレター。

提供：白馬村観光局



『マウンテンリゾート白馬村』を目指して

「GREEN WORK HAKUBA (以下GWH)」開催地である白馬村。今月号では、白馬村観光局の福島 洋次郎様に弊社代表の岡部がお話しをお伺いしました。福島様が感じる白馬村への想いや今後の展望についての貴重なお話をお届けいたします。

岡部：まず、福島さんの白馬村への想いを教えてください。

福島さん：私が小学生の頃はバブル絶頂期で、白馬村はとても活気にあふれていたのですが、バブル崩壊の煽りを受けて、宿泊施設など観光業を中心に相次いで閉店に追いやられていました。その頃、自分はカナダの留学から日本へ戻り、変わり果てる村の現実を目の当たりにしたんです。それから数年を経て白馬村観光局で勤務し「観光面の改善」の実現を目指して活動しています。今年7月には、白馬村で唯一の本屋を、村内外から多くの暖かいご支援を受けて「Re:Public」として再建できました。ただの本屋ではなく、村の活性化の課題から大人から子供まで多くの方が「本」をキッカケにコミュニケーションがとれる場所作りとし、白馬村が賑わいで溢れるキッカケにしていけたら嬉しいです。

岡部：GWHの開催は、白馬村にとってどんな役割を果たしているのでしょうか？

福島さん：新東通信の榎本さんに出会い、何か一緒に協調して出来ることはないか？と話していたところ、白馬村の雪の減少や若年層の集客、平日の集客率アップなどの課題が見えてきました。そこで、榎本さん率いるチームで勉強しているサーキュラーエコノミー（以下CE）とワーケーションをインプットしながら、集客アップに繋がるカンファレンスを組成していけたらと考え合いGWHができました。スタートアップ企業に声をかけた結果、効果的に人を集めることができ、私が想像もしないアイデアを沢山持つイノベーターが多く、熱のこもったカンファレンスが実現しました。

岡部：白馬村観光局としての今後の展望をお願いします。

福島さん：白馬村の合言葉は「マウンテンリゾートになろう!」です。しかし現実には、全国どこにでもあるようなコンクリートの四角いマンションやリゾートホテルが増えてきています。自然との共生を大切にしながら白馬村だからこそ体感できる、独自の新たな世界感を生み出していきたいと思えます。私達は、GWHやCEを通して地域に浸透させていながら、白馬村全体の空気感を醸成していくことがとても重要な役割と考えています。

岡部：最後に一言メッセージをお願いします！

福島さん：まだ来たことのない人は是非一度来てください！1日ではなく2~3日過ごしてみ、大自然に抱かれた白馬村での楽しさを肌で感じてほしいです。



福島 洋次郎さん



写真：白馬村「Re:Public」 長らく閉店していた福島書店を、セルフリノベーション。泊まれる古本屋・カフェ・イベントスペースに再生。
書蟲展season4の長野会場はこちらのRe:Publicにて9/30~10/9まで展示。



害蟲展season4 東京・大阪・長野にて9月より巡回展開催！

「害蟲展」とは？

害虫・害獣と呼ばれる生物は悪モノとして人間によって駆除されています。害蟲展は、アートを通して地球上に住まう人間と生物の在りかたを考え、新しい関係を創造するムーブメントを創出できるきっかけ作りとして、8thCAL株式会社が主催する展示会です。人間にとって「不都合」「不快」「不利益」な一面だけに目が行ってしまいがちな、いわゆる「害虫や害獣」の美しい点・有益な側面・生命の循環や存在次元に焦点を当てて制作された作品を広く公募、展示をしています。

害蟲展に込められた想い

シェルグループは、「人と自然が共存できる、都市衛生の未来を創造する」を掲げ、「持続可能な都市環境」を目指しています。そのためには社会全体に“棲み分け”という考え方を周知し、定着させることが必要です。その“棲み分け”をテーマに、啓蒙活動として企画したものが「害蟲展」です。人間の生活空間を害虫や害獣と呼ばれる生き物たちにとって、棲みにくい空間に変えることが繁殖率の低下や、殺虫剤の使用を減少させることに繋がるのではないのでしょうか。人にとっても不快な思いをすることなく、彼らを棲むべく場所に還す。これが、シェルグループが大切にしている“棲み分け”の考え方です。

このような考え方を社会に伝える為、8thCAL株式会社は害蟲展を開催いたします。2020年を皮切りに今年で4回目となる害蟲展ですが、今年から新しい地での開催も決定いたしました。アートを通して人間と生物の在りかたについて考えるきっかけ作りとなれば嬉しいです。是非足をお運びください。



写真：害蟲展season3 MATERIO baseの様子

【害蟲展season4 会期・会場情報】

- ・MATERIO base (東京)**
 会期：2023年9月2日(土)～9月15日(金)
 会場：東京都中央区東日本橋3-11-2
- ・箕面公園昆虫館 (大阪)**
 会期：2023年9月20日～9月25日
 大阪府箕面市箕面公園1-18
- ・白馬村 Re:Public (長野)**
 会期：9月30日(土)～10月9日(祝)
 会場：長野県北安曇郡白馬村北城7078



↑
害蟲展HPIは
こちら！

今月のInsect



写真/解説
中峰 空
8thCAL技術顧問
箕面公園昆虫館館長



ナガヒラタムシ

(長平虫)

コウチュウ目ナガヒラタムシ科

学名：Tenomerga mucida

甲虫の中でも特に原始的で、最古の化石は約2億3千万年前の中生代第三紀の地層から発見されている。幼虫は腐朽菌に侵された朽木を食べて育つ。成虫は主に夏季に葉上や灯火で見られることが多い。網目状の鞘翅や前胸の形態がいかに原始的で丸くて愛らしい複眼と合わせて非常に魅力的な甲虫である。

Information

●害蟲展 Twitter更新中！

害蟲展の様々な情報や、蟲トピックスなど、最新の情報を随時発信中。この時期、展示会に繋がる情報も多くツイートしています！ アカウントフォローして最新情報をGet！▶▶▶



●Pick up 展示会情報

INSECTS

(※害蟲展審査員・満田春穂先生が出展しています。)

会期：2023年7月28日(金)～8月12日(土) 10:30-18:30
 会場：SASAI FINE ARTS ササイファインアーツ (日・月休廊)
 〒104-0061 東京都中央区銀座3-7-20 銀座日本料理会館2階



GOOD FOOD & CRAFT EXPO

(※弊社は出展しておりません。)

会期：2023年9月1日(金)～9月3日(日)
 会場：東京ビッグサイト東2・3ホール

Insectopia インセクトピアの配信登録はこちらから！

QRコードを読み取り後、登録フォームよりご登録ください。ニュースリリースや採用情報、イベントなどの最新情報を配信中です。

